



加古川市民27万人の力で 20%ごみ減量を!

特別号(平成28年11月)

市民の皆さんに、大切なごみ減量のことについてお伝えするため、定期的に情報発信しています。

【お問い合わせ】

〒675-0019 加古川市野口町水足 1452-1 環境美化センター内

加古川市 環境部 ごみ減量推進課

TEL : 079-426-5440

FAX : 079-426-6403



ごみ減量キャラクター
「いって
く一手くん」

1 燃えるごみの量を20%減量しなければなりません

加古川市は平成33年度末の目標として、1人1日あたりの燃えるごみの排出量を742グラム(平成21年度の全国平均値)に設定しました。これを市全体の年間排出量に換算すると、71,553トンになります。

このため、平成25年度の燃えるごみ排出量の実績(89,338トン)から約20%(17,785トン)減量する必要があります。

右のグラフからも、加古川市は1人1日あたりの燃えるごみの排出量(913グラム)が、全国平均値の742グラムと比較してかなり多いことがわかります。

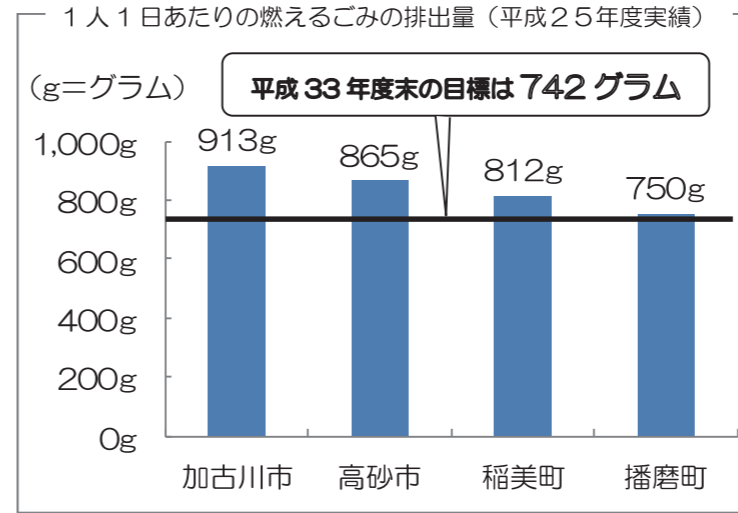
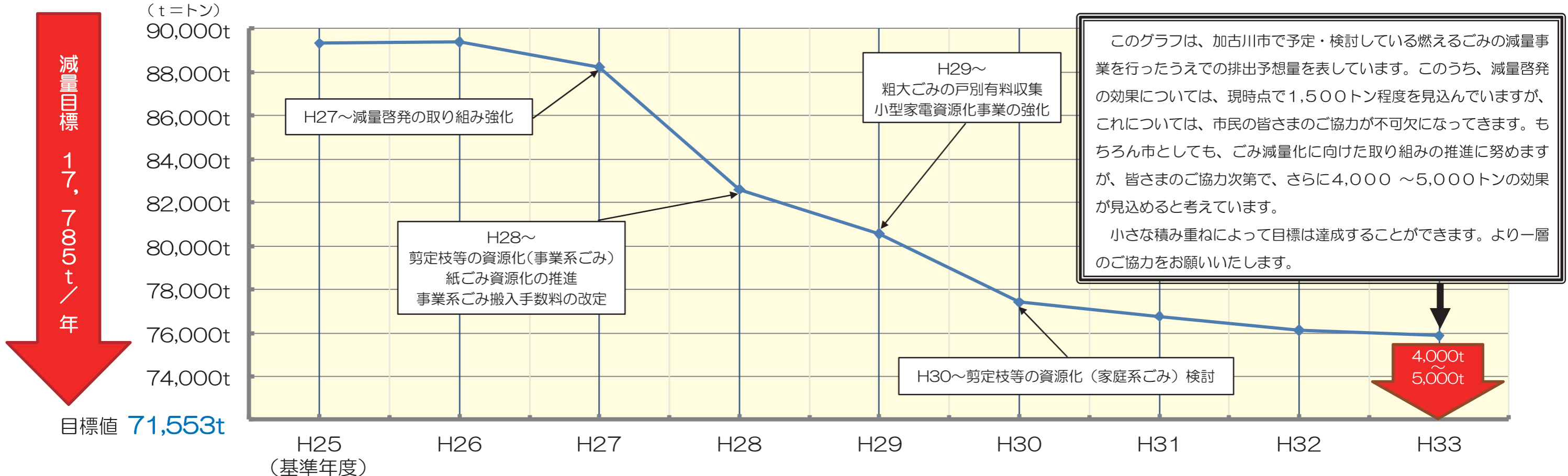
2 なぜ、ごみを減量しないといけないのでしょうか

温室効果ガスの影響による異常気象や石油等の天然資源の枯渇といった地球的規模の環境問題も、私たちの毎日の生活と決して無関係ではありません。環境に与える影響をできるだけ少なくする生活様式への転換が求められています。豊かな環境を次世代に引き継ぐためにも、ごみの減量はその第一歩なのです。

また、平成34年度から、加古川市のごみは、2市2町(加古川市・高砂市・稲美町・播磨町)で運営する新しいごみ処理施設(高砂市に建設予定)で処理することとなっていますが、この施設は、環境に与える負荷をできるだけ抑え、また、各市町の経費を削減するため、焼却処理能力を抑えた設計となっています。このため、燃えるごみの量を大幅に減らさなければならないのです。

3 減量の計画

本市では、下のスケジュールのように、平成33年度末までに燃えるごみ17,785トンの減量を目指します。



1人1日あたりの排出量913グラム(平成25年度実績)から、目標とする742グラムまで減らすには、1人1日あたり171グラムの減量が必要です。

171グラムという重さは・・・

- たまごMサイズ (約60グラム) 3個分
- あるいは、新聞紙 朝刊1日分に相当します。

4 ごみの処理にかかる費用

平成27年度実績で約27.2億円(歳出の約3.5%)

⇒市民1人あたり 10,202円/年

4人家族なら 40,808円/年

処理費用合計	27.2億円
収集経費(ごみを収集する経費)	8.4億円
焼却経費(ごみを燃やす経費)	14.7億円
破碎経費(不燃ごみ・粗大ごみを処理する経費)	2.9億円
埋立経費(焼却灰などを処理する経費)	1.2億円

このグラフは、加古川市で予定・検討している燃えるごみの減量事業を行ったうえでの排出予想量を表しています。このうち、減量啓発の効果については、現時点で1,500トン程度を見込んでいますが、これについては、市民の皆さまのご協力が不可欠になってきます。もちろん市としても、ごみ減量化に向けた取り組みの推進に努めますが、皆さまのご協力次第で、さらに4,000~5,000トンの効果が見込めると考えています。

小さな積み重ねによって目標は達成することができます。より一層のご協力をお願いいたします。

20%という減量目標を達成することができなかつたら・・・

燃えるごみの20%減量という目標を達成することができなければ、処理できないごみが日々積み残されることとなります。そうならないためにも、市民の皆さまには、ごみの分別や資源化の取り組みにご協力をお願いいたします。しかしながら、目標達成が難しいということになれば、確実に効果が見込まれる施策である「ごみの有料化」あるいは「指定ごみ袋制度」を導入せざるを得なくなります。